

ユース育成担当者会議

技術委員会 ユース育成部会
2017/09/03



- 「強化育成組織のあり方」
- 「育成センターの実施」
- 「リーグ戦文化の導入」

世界に通用するバスケットボール 強化

世界基準を日常に取り入れる
世界を目指す環境
世界を視野に入れた指導を日常から行う



国内で活気あるバスケットボール 普及

バスケットボール愛好者を増やす
バスケットボールを楽しめる！上手になる！
日本代表が強い！応援する！



いつかやらなければならないことであるならば
 私たちの世代でやろうではないか

煉瓦を積むようにして土台を作る
 その大きな土台に
 最後の一個を代表が載せる

土台を作るのは
育成世代に関わる指導者たち

選手たちは将来大きく成長する
素地を持つことができる

【課題】

- 日本の指導方針が見えない
- 育成が不十分
 - トーナメント文化で試合数少
 - 成長が大きくない
 - 能力別に発揮する場が不足
 - Bリーグユース(男子)の設置
 - 大会が育成方針に合っていない
- 発掘の道筋が分かりにくい
- 育成世代での勝利至上主義
 - 成長に適した指導ではない
 - 指導者教育が不十分



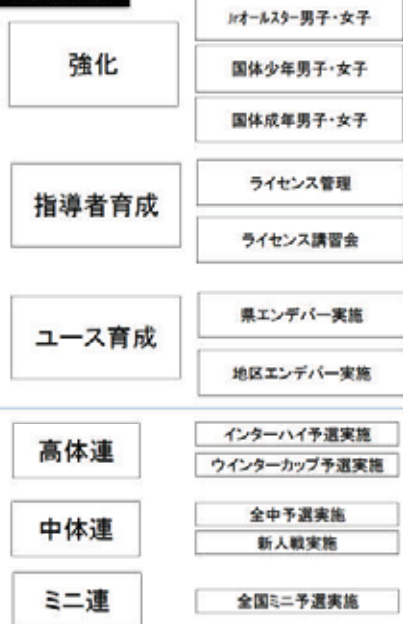
【解決策】

- 指導内容の明確化と周知**
 - ジャパンスウェイの反映
 - 習熟度別指導方針作成
 - 周知方法論 (HP・講習会)
- 育成センターの創設**
 - 個の育成、飛び級
 - 発掘システムとしての充実
 - JBA方針伝達、指導者教育
- リーグ戦文化の構築**
- 大会の環境整備**
 - 育成方針を反映した大会

【旧体制】

強化	Jrオールスター男子・女子
	国体少年男子・女子
	国体成年男子・女子
指導者育成	ライセンス管理
	ライセンス講習会
ユース育成	県エンデバー実施
	地区エンデバー実施
高体連	インターハイ予選実施
	ウインターカップ予選実施
中体連	全中予選実施
	新人戦実施
ミニ連	全国ミニ予選実施

【旧体制】



【新体制】



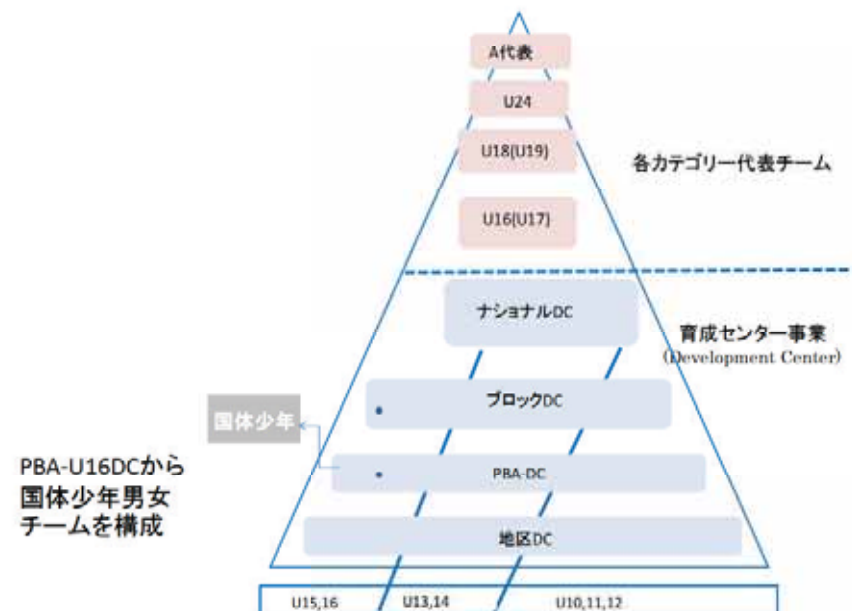
育成センター事業 (Development Center= DC)

I 育成センター(DC)の目的

- 質の高い競争(育成)・・・個の育成
最低でも2年カテゴリー U12/U14/U16
- 情報伝達(指導者教育)
ジャパンスウェイ、育成世代コーチング
- 能力に応じた競争(発掘)
天井効果排除

※地区⇒県⇒ブロック⇒ナショナルに繋がる発掘
(アスリートパスウェイ)

II 育成センターの構造



PBA-U16DCから
国体少年男女
チームを構成



- ナショナル育成キャンプーブロックエンデバーー都道府県エンデバーー地区エンデバーの統合
- 都道府県・地区における育成環境整備

- 2018年度準備年度
ー実施可能なところは実施
- 2019年度完全実施を目指す



都道府県育成センターとしての全国的イベント

- U12U14の育成センター全国イベントの是非については今後検討
- PBA-U16DC活動を都道府県の国体少年男女チーム活動と連動させる。

1. 主催団体と担当

- ① 都道府県協会主催事業であること
- ② 都道府県協会ユース育成担当者が中心となって事業を進めること

2. 活動の構造

- ・ 地区（市区町村）単位と都道府県単位が存在し連携した活動（ピラミッド構造）になっていること（都道府県単位のための単発的な活動は対象外）

3. 選手対象年齢

① 16歳以下の選手を対象とした事業であること

※2018年度に限り、18歳以下も認める。
2019年度以降は16歳以下のみ対象となる。

② 1年(1歳)単位のカテゴリを設定することが望ましい

最低でもU12U14U16の2年ごとのカテゴリを設定する。

③ 年齢は1月1日付の年齢を基準とする

ただし、運用として4月1日付の年齢(学校における学年)を基準とすることも認める。

※ 優秀な選手の場合、上のカテゴリで活動することは妨げない。
(飛び級を可とする。)

1. 設定単位(カテゴリと区分)

■ U12U14U16を設定した場合

U16				国体 少年男女
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	
U14				
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	
U12				
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	

※ 地区数は都道府県により異なる。

■ U11~U16を設定した場合

U16				国体 少年男女
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	
U15				
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	
U14				
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	
U13				
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	
U12				
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	
U11				
県選抜				
A地区	B地区	C地区	D地区	

※ 地区数は都道府県により異なる。

2. 年間日程

■ 年間活動計画(育成計画)に基づき実施する

① 月1回以上計画

② 年間10回以上計画

■2017N県年間実施計画

	U13		U15		U18		U14		JAS	U16		少年男女 両性
	4地区	県	4地区	県	4地区	県	4地区	県		4地区	県	
4	Coach 研修会										2016.12.18	
	Troyer(県選+公選)		Troyer(U13)選抜+公選)		Troyer(U12)選抜+中学選抜+公選)		Troyer(U13)選抜+中学選抜+公選)			Troyer(U14)選抜+中学選抜+公選)		
5	練習会(1回)		練習会(1回)	U13年度総括	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)				
6	練習会(1回)		練習会(1回)		練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)				
7	練習会(1回)		練習会(1回)		練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)				団体T-test活動
8	4地区+PWU13対抗戦		4地区+PWU13対抗戦		4地区+県選抜+PWU13対抗戦 選手入替等		4地区+県選抜+PWU14対抗戦 選手入替等			2016.12.18・Test Match 選手選手・入替等		団体T-test活動
9	練習会(1回)		練習会(1回)		練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)			練習会(1回)	団体T-test活動
10	練習会(1回)		練習会(1回)		練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)			練習会(1回)	団体T-test活動
11					練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)			練習会(1回)	
12	4地区+PWU13対抗戦		4地区+PWU13対抗戦		4地区+県選抜+PWU13対抗戦		4地区+県選抜+PWU13対抗戦				練習会(1回)	
1	練習会(1回)	練習会	練習会(1回)	練習会	練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)		JAS-T-test構成			
2	練習会(1回)	北信越文藝会	練習会(1回)	北信越文藝会		北信越文藝会	練習会(1回)		JAS活動			
3	練習会(1回)		練習会(1回)		練習会(1回)	練習会(1回)	練習会(1回)		JAS活動			

3. 単位(カテゴリーと区分)別日程

①毎月第4土曜日(仮)の設定

育成センターの日程が優先されるようなスケジュールの構築

築

②1回あたりの練習時間

3時間以内

③場所

体育館調整(単位ごとに決定する。)

■2017N県単位別実施計画

NO	県or地区	カテゴリー	男女	月	日時	場所	備考
例	県	U13	男	4	2017/4/23 9:00-12:00	松本市総合体育館	
1	全県	ALL	男女	4	2017/4/1 13:00-18:00	松本筑摩高校体育館	コーチ研修会
-	県	U14	男子	4	-	-	
2	県	U14	男子	5	2017/5/7 8:30-12:30	東北中学校(長野市)	
3	県	U14	男子	6	2017/6/10 8:30-12:30	東北中学校(長野市)	
4	県	U14	男子	7	2017/7/1 8:30-12:30	高森中学校(高森町)	
5	県	U14	男子	8	2017/8/5 8:30-12:30	小海中学校(小海町)	
6	県	U14	男子	9	2017/9/2 8:30-12:30	東北中学校(長野市)	
7	県	U14	男子	10	2017/10/7 8:30-12:30	東北中学校(長野市)	
8	県	U14	男子	11	2017/11/18 8:30-12:30	高森中学校(高森町)	
9	県	U14	男子	11	2017/11/25 8:30-16:30	未定	
11	県	U14	男子	12	2017/12/2 8:30-12:30	小海中学校(小海町)	
12	県	U14	男子	12	2017/12/10 8:30-12:30	未定	

4. スタッフの決定

コーチ・マネージャーを決定する。

①総括マネージャー

②カテゴリーマネージャー

③単位ごとのコーチ

例：U12U14U16カテゴリーで4地区+県選抜(計5単位)に3名のコーチを配置した場合のコーチ数

$$3\text{カテゴリー} \times 5\text{単位} \times \text{男女} \times 3\text{名} = 90\text{名}$$

■記入例

総括Staff

NO	Categ.	男子			女子		
		氏名	所属	Lice.	氏名	所属	Lice.
1	全体総括						
2	U11						
3	U12						
4	U13						
5	U14						
6	U16						

全体総括は1名、
カテゴリー総括は
男女兼任も可

Coach

NO	Categ.	別	男子			女子		
			氏名	所属	Lice.	氏名	所属	Lice.
1	県	Main						
2		Sub						
3		Mana						
4	北信	Main						
5		Sub						
6		Mana						
7	東信	Main						
8		Sub						
9		Mana						
10	中信	Main						
11		Sub						
12		Mana						
13	南信	Main						
14		Sub						
15		Mana						

24

5. 選手募集と選考

①選手募集

- 都道府県協会HPの案内
- 協力団体への告知
- 各チームへの告知

②選考

- ・各単位の適性人数は20名前後
 - ・トライアウトを基準に選考
- ※選手の途中入れ替えも可とする。

25

6. 指導内容

①指導内容

JBA技術委員会より提示された内容を基準とする。

②コーチ研修会設定

指導者を対象に教育・研修を抱合せで実施すること

26

7. 経費と処理

①事業予算案の作成

- 事業規模の確認
カテゴリー、単位数、コーチ数等
- 経費基準の設定
JBAの定める「育成センター経費処理規程」に準ずる
上限等を設ける場合は都道府県で基準を設けること
- 全体予算の作成
⇒ 都道府県協会全体として確認すること

27

7. 経費と処理

②事業遂行のための財源

- 選手からの適切な参加料徴収
- 補助金等（JSC 他）
- スポンサー収入
- 都道府県協会の負担
- Dファンドの活用

28

8. その他

①実施報告書

単位ごとに毎回、内容と参加選手を記した報告書を作成する

②参考として

2017年度にPBA-DCを実施した長野県DCの資料を参考に

29

■PBA-DC参加選手の中からブロックDC,
ナショナルDC推薦選手等が決定する。

- ①U11 ⇒ 次年度U12ブロックDC
- ②U12 ⇒ U12ブロックDC
- ③U13 ⇒ U13ブロックDC
- ④U14 ⇒ U14ナショナルDC
- ⑤U15 ⇒ U15ナショナルDC・国体・U16日本代表
- ⑥U16 ⇒ 国体少年・U16ブロックDC・U16日本代表

30

指導内容を学び
指導実践を通して
育成年代のコーチとしての
指導技術の研鑽を積むこと

1. 若く、情熱のある指導者の指導実践の機会としてDCを活用
2. 総括等からの助言を受けるなど指導者を育てる環境を作る

31



リーグ文化醸成へ向けた取り組み

技術委員会 ユース育成部会
2017/09/03

リーグ文化醸成へ向けた取り組み

- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション

1 リーグ化の意義

■ リーグ方式とトーナメント方式

方式	特徴
リーグ	一定の試合数が確保される 同水準の競技レベルで試合が出来る
トーナメント	一発勝負の緊張感のある試合 優勝チームは無敗の完全勝利

■ 現行トーナメントの特徴

47都道府県代表から1番を
決定するトーナメント方式

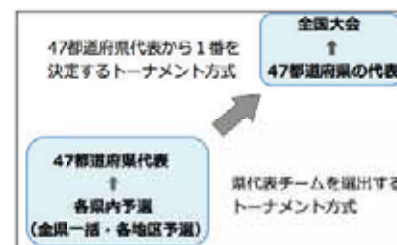
全国大会
↑
47都道府県の代表

47都道府県代表
↑
各県内予選
(全県一括・各地区予選)

県代表チームを選出する
トーナメント方式

36

■ 現行トーナメントの特徴



試合を経験できるチームが限られていく
試合を経験出来る選手が限られていく

育成年代へのデメリット

37

■ よりよい育成への変革

現行トーナメントの

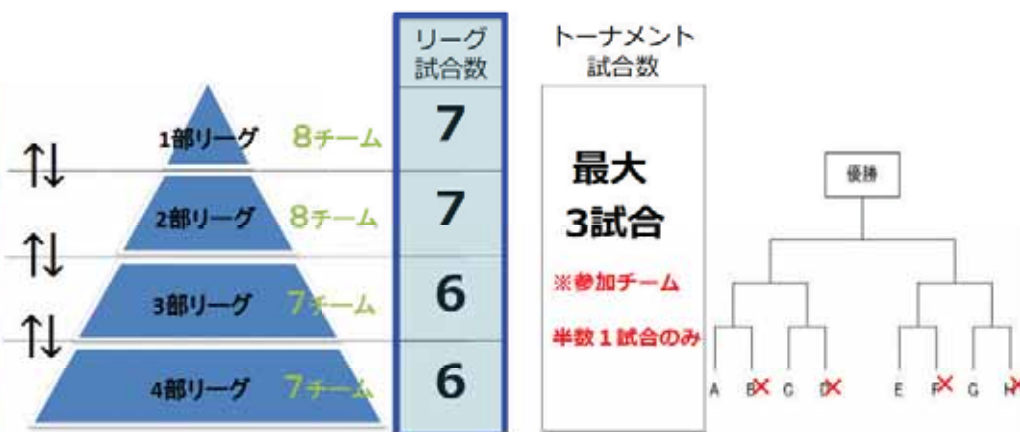
育成年代へのデメリットの改善



- ① 全ての大会がトーナメントである必要はない
- ② リーグ化により選手として経験の場の増加
補欠文化からの脱却→**普及・育成**
- ③ リーグ化によりチームとして拮抗した試合数の増加
適正競技レベルでの経験値増加→**育成**

38

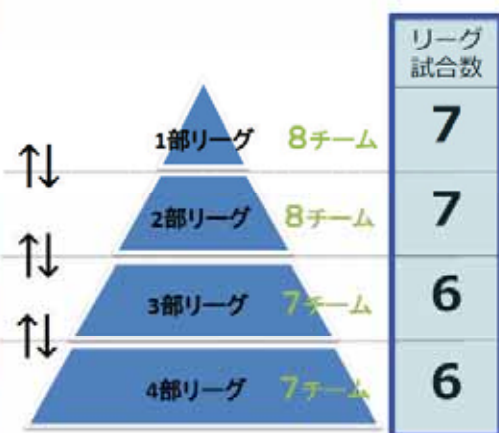
【普及】一定試合数確保によるプレー機会の創出



参加チームに対して一定試合数が確保される

39

【育成】実力の拮抗した試合の増加



適正競技レベルでの
試合が増加することで
拮抗した試合のなかで
経験値増加が見込まれる

【試合数の変化イメージ】

■ 年間試合数(トーナメントのみ)

全大会優勝した場合	20 試合
〃 ベスト8の場合	12 試合
〃 初戦敗退の場合	3 試合

(参考大会:2015バスケ)
年間4大会設置

県内登録チーム数 171

■ 年間試合数(リーグ・トーナメント並行実施)

全大会優勝した場合	36 試合
〃 ベスト8の場合	31 試合
〃 初戦敗退の場合	22 試合

(参考大会:2015サッカー)
年間4大会設置

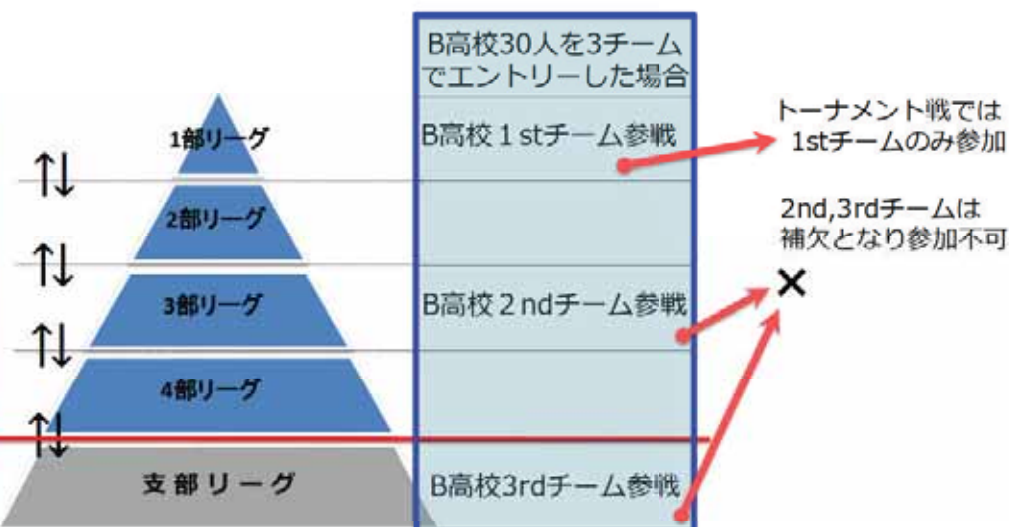
+
リーグ大会(9ヶ月)設置

県内登録チーム数 171

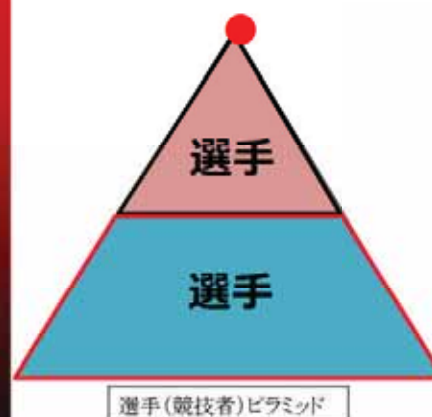
リーグ試合数が確保される試合のある日常となる

【普及】補欠をなくすプレー機会の創出

【複数チームエントリーのイメージ】



【育成】選手ピラミッドを効率化する



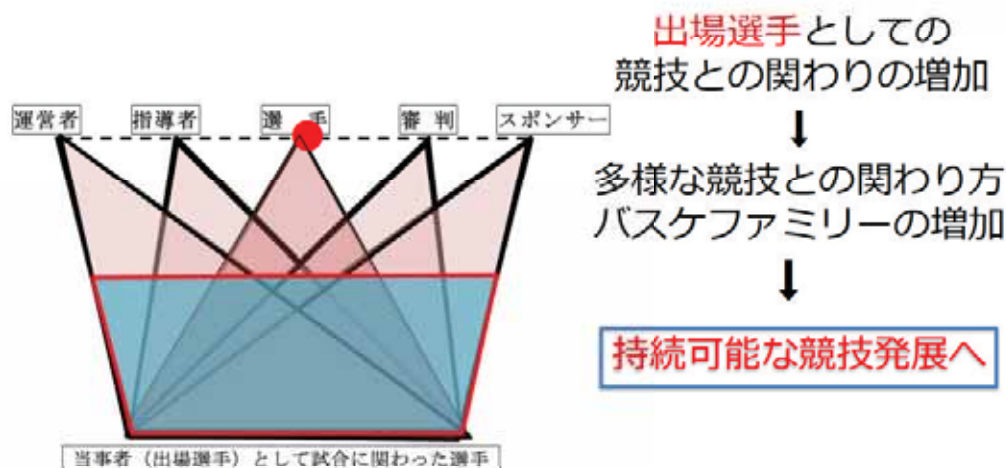
トーナメント文化

ピラミッドの上層のみ高める
下層は補欠となる

リーグ文化

ピラミッド下層に競争機会を作る
下層に出場選手として機会を作る

【普及】バスケットファミリーピラミッドの数を増やす



44

■ リーグ化に伴う課題

リーグ化により以下の様な課題が想定される。

① 会場確保

試合数の増加による会場の確保

② 審判確保

試合数の増加による審判の確保

③ 日程確保

既存トーナメントと並行するリーグ日程の確保と調整

45

■ リーグ戦のスタートへ向けて

適切な普及は、
バスケットボールファミリーを増やし、
未来の日本バスケットをより良く作り替えていきます

適切な育成は、
未来の強い日本代表作りへ繋がっていきます

リーグ化の実現には、各カテゴリーや都道府県それぞれの異なる実態から、47通りの課題があると考えられます。

課題と向き合いながら、育成と普及の未来を作っていく作業は私たちバスケットボールファミリーの絆を高めるチャンスとも考えられます。

46

1 リーグ化の意義

2 既存大会とリーグの位置付け

3 運営と人的配置・設置手順

4 実施運営例

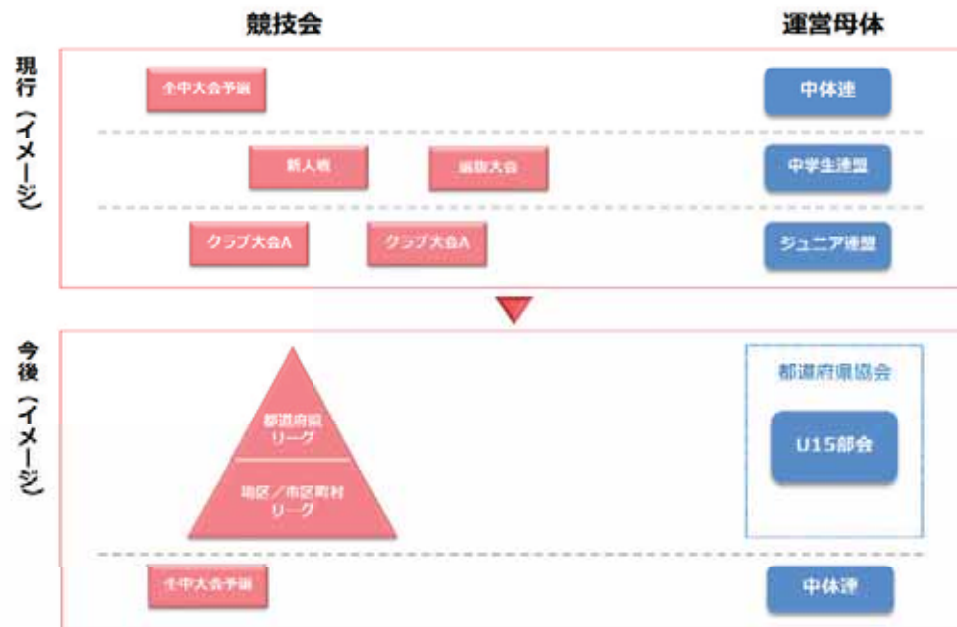
5 共通レギュレーション

47

■ 既存の大会とリーグの位置付け

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	リーグの位置付け								
期	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
U18																					既存トーナメントと独立した日常に試合のあるリーグを設置 将来ブロックリーグを設置予定
U15																					大会再編に合わせたJWC予選とつながる日常に試合のあるリーグを設置 ジュニアオールスター
U12																					既存トーナメントと独立した日常に試合のあるリーグを設置 全国ミニ

■ U15 各種競技会と運営母体



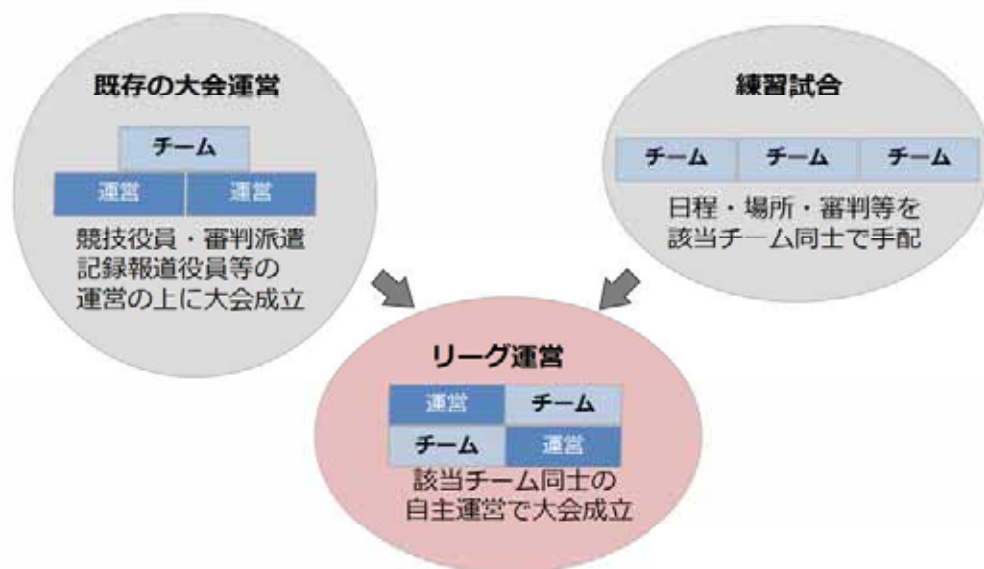
■ U15リーグとの関連

- 県予選はトーナメント形式で実施するが、予選の参加資格をU15リーグへの参戦を条件とする
- U15後期リーグ上位グループで県予選トーナメントを組む



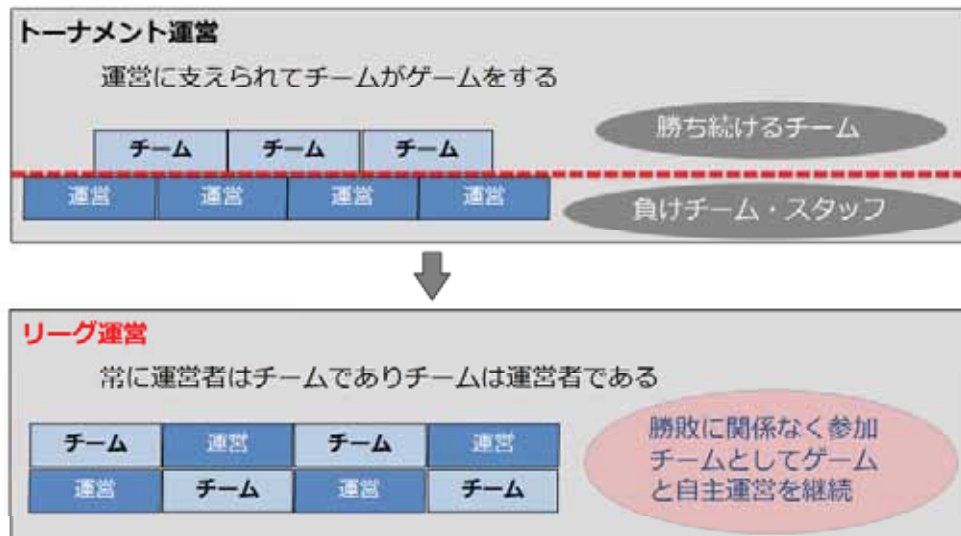
- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション

■ 都道府県リーグスタートに向けた運営の考え方



52

■ 都道府県リーグスタートに向けた運営の考え方



53

■ 都道府県リーグスタートに向けた運営の考え方

「リーグ戦を日常にする文化醸成」実現へのリーグ運営

- ①運営とチームを分ける考え方から、参加者同士が相互に運営をするという考え方へシフトする
- ②運営を役員に任せるといった文化の脱却がリーグ文化醸成、バスケファミリーを増やす種まきになる

リーグ運営

常に運営者はチームでありチームは運営者である

チーム	運営	チーム	運営
運営	チーム	運営	チーム

勝敗に関係なく参加
チームとしてゲーム
と自主運営を継続

54

■ 都道府県リーグスタートに向けた運営の考え方

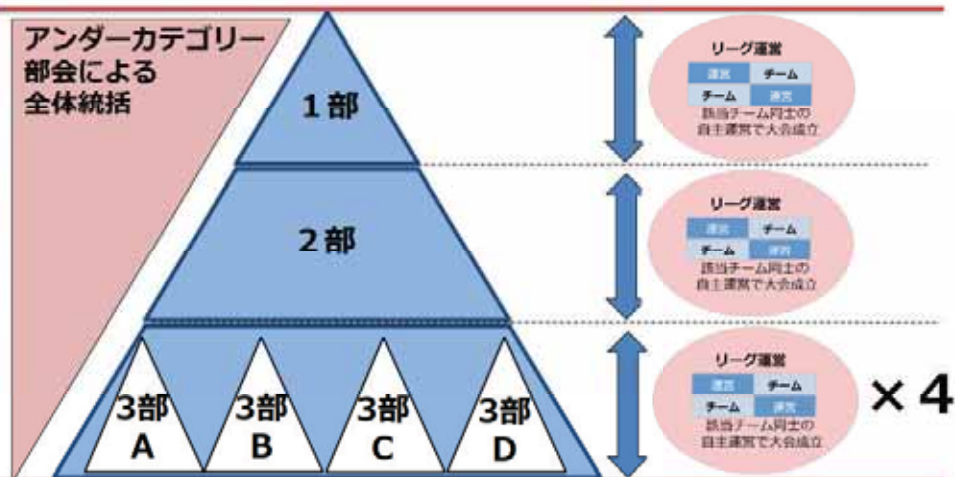
「リーグ戦を日常にする文化醸成」実現へのリーグ運営



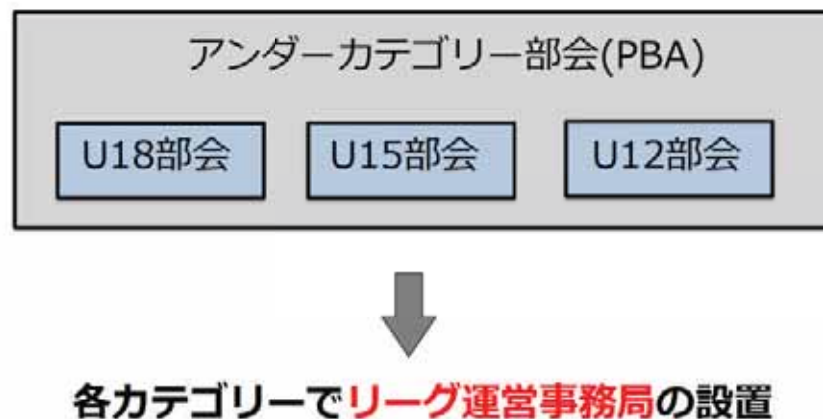
上記、当日運営以外に必要な
事前準備・中期計画・年間計画を
各アンダーカテゴリー部会で準備するという考え方。

55

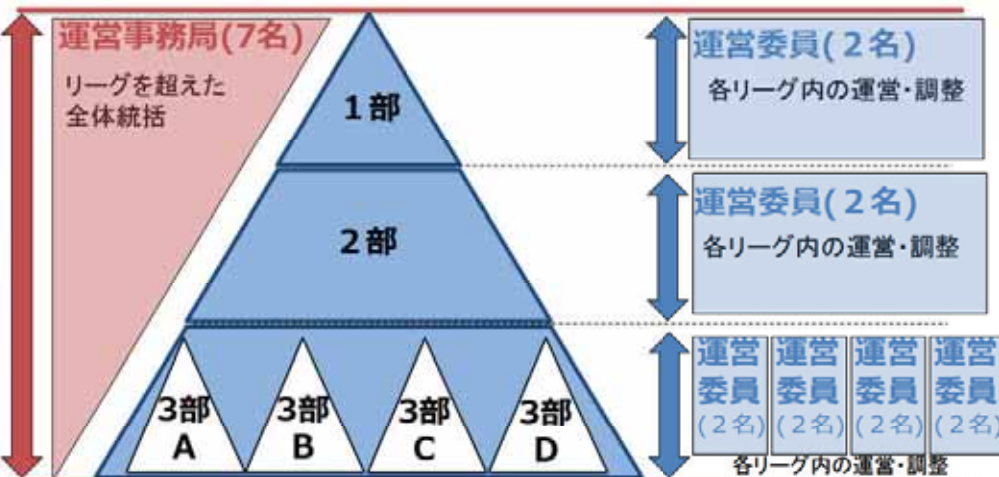
■ 都道府県リーグ運営イメージ



■ 都道府県リーグのスタートへ向けた人的配置

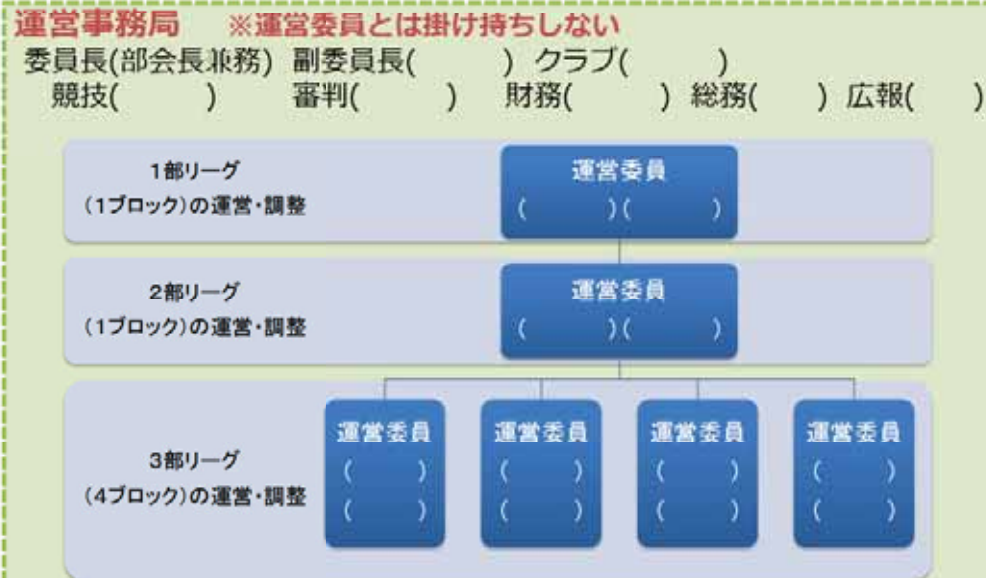


■ 人的配置イメージ



運営事務局 (7~8名) ➡ 県内リーグ全体の運営統括
 運営委員 (2名×リーグ数) ➡ 各リーグ内の運営・調整

■ 県内リーグ実施の人的配置の例



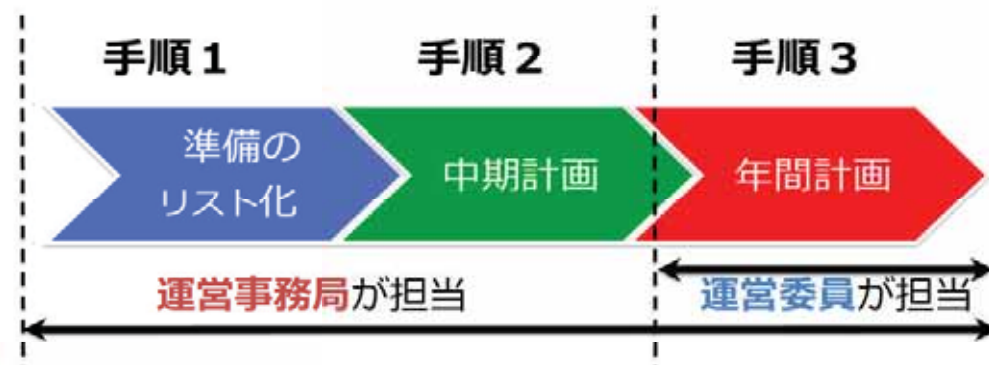
■ リーグスタートへ向けた設置手順



リーグ運営事務局は
手順1～3でリーグ準備を進めます

60

■ 人的配置と設置手順



運営事務局 (7～8名) → 県内リーグの運営統括
 運営委員 (2名×リーグ数) → 各リーグの実際の運営・調整
 ※運営委員は必ず該当リーグ内から選出

61

■ 手順1 準備のリスト化



詳細作成ではなく全体把握のための項目確認

都道府県の実態に合わせ、以下3項目のリスト化

- 1 リーグ開幕前(準備段階)の必要項目
(スケジュール・グループ分け等)
- 2 リーグ期間中に必要な作業項目
(試合結果・試合調整の連絡方法等)
- 3 リーグ期間中のエラー発生時の解決手順
(問題発生時の手順・決定の流れ等)

62

■ 手順2 中期計画



準備年から完成年までの中期計画



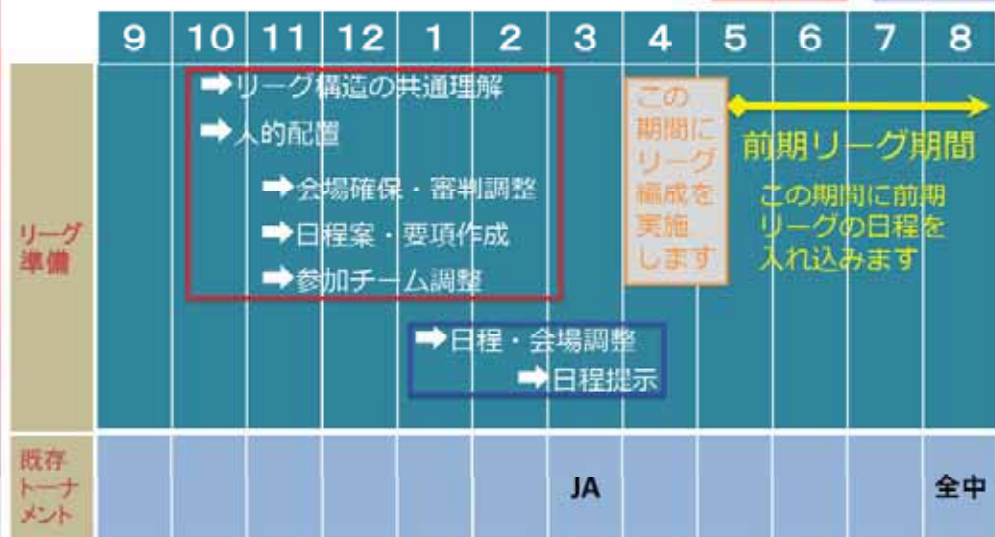
63

■手順2 中期計画 (2017~)



【U15カテゴリー 2018年5月開幕の準備例】

運営事務局 運営委員

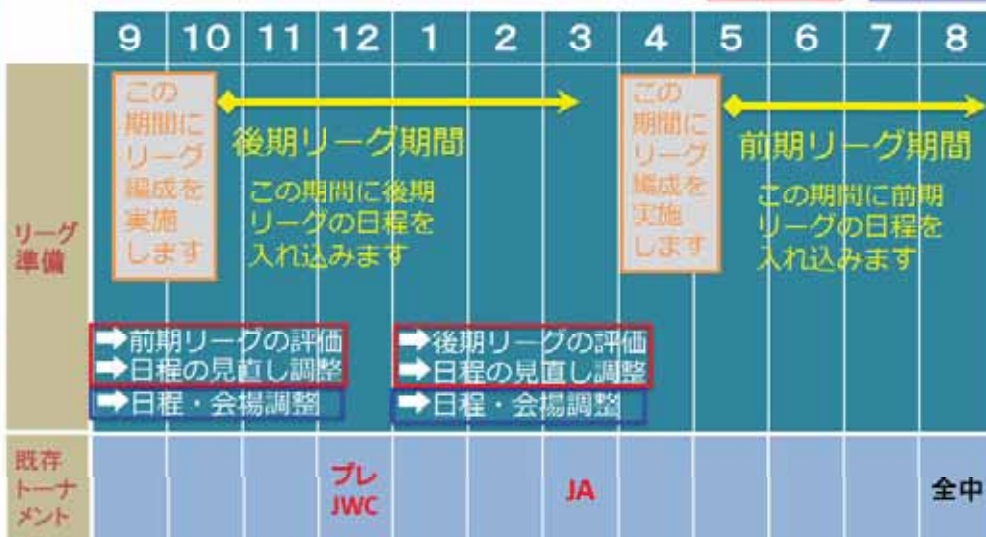


■手順2 中期計画 (2018~)



【U15カテゴリー 2018年-2019年準備例】

運営事務局 運営委員



■手順2 中期計画 (2019~)



【U15カテゴリー 2019年-2020年準備例】

運営事務局 運営委員



■手順3 年間計画



詳細な年間計画



既存のトーナメント日程を考慮して
リーグ日程を入れこむ作業

都道府県の実態や学校スケジュールを考慮した
詳細年間計画の作成作業

※各リーグピラミッドごとに運営委員が作成

- ▲ 新人大会
- 全中
- ★ ジュニアオールスター

■ 手順3 年間計画

詳細な年間計画 (2018年4-7月)



日	4	5	6	7
1	日	月	火	水
2	木	金	土	日
3	月	火	水	木
4	金	土	日	月
5	火	水	木	金
6	土	日	月	火
7	水	木	金	土
8	日	月	火	水
9	木	金	土	日
10	月	火	水	木
11	金	土	日	月
12	火	水	木	金
13	土	日	月	火
14	水	木	金	土
15	日	月	火	水
16	木	金	土	日
17	月	火	水	木
18	金	土	日	月
19	火	水	木	金
20	土	日	月	火
21	水	木	金	土
22	日	月	火	水
23	木	金	土	日
24	月	火	水	木
25	金	土	日	月
26	火	水	木	金
27	土	日	月	火
28	水	木	金	土
29	日	月	火	水
30	木	金	土	日
31	月	火	水	木

- L リーグ
- 地 地区大会
- 県 県大会
- ブ ブロック大会
- 全 全国大会
- DC 育成センター
- ▲ 新人大会
- 全中
- ★ ジュニアオールスター

- ・ 学総との日程調整
- ・ 学校行事との日程調整
- ・ 3年生引退とクラブチーム移籍のルール整備

■ 手順3 年間計画

詳細な年間計画 (2018年8-11月)



日	8	9	10	11
1	月	火	水	木
2	金	土	日	月
3	火	水	木	金
4	土	日	月	火
5	水	木	金	土
6	日	月	火	水
7	木	金	土	日
8	月	火	水	木
9	金	土	日	月
10	火	水	木	金
11	土	日	月	火
12	水	木	金	土
13	日	月	火	水
14	木	金	土	日
15	月	火	水	木
16	金	土	日	月
17	火	水	木	金
18	土	日	月	火
19	水	木	金	土
20	日	月	火	水
21	木	金	土	日
22	月	火	水	木
23	金	土	日	月
24	火	水	木	金
25	土	日	月	火
26	水	木	金	土
27	日	月	火	水
28	木	金	土	日
29	月	火	水	木
30	金	土	日	月
31	火	水	木	金

- L リーグ
- 地 地区大会
- 県 県大会
- ブ ブロック大会
- 全 全国大会
- DC 育成センター
- ▲ 新人大会
- 全中
- ★ ジュニアオールスター

- ・ 夏季休業中の日程有効活用
- ・ 新人大会等との日程調整

■ 手順3 年間計画

詳細な年間計画 (2018年12-3月)



日	12	1	2	3
1	土	日	月	火
2	水	木	金	土
3	日	月	火	水
4	木	金	土	日
5	月	火	水	木
6	金	土	日	月
7	火	水	木	金
8	土	日	月	火
9	水	木	金	土
10	日	月	火	水
11	木	金	土	日
12	月	火	水	木
13	金	土	日	月
14	火	水	木	金
15	土	日	月	火
16	水	木	金	土
17	日	月	火	水
18	木	金	土	日
19	月	火	水	木
20	金	土	日	月
21	火	水	木	金
22	土	日	月	火
23	水	木	金	土
24	日	月	火	水
25	木	金	土	日
26	月	火	水	木
27	金	土	日	月
28	火	水	木	金
29	土	日	月	火
30	水	木	金	土
31	日	月	火	水

- L リーグ
- 地 地区大会
- 県 県大会
- ブ ブロック大会
- 全 全国大会
- DC 育成センター
- ▲ 新人大会
- 全中
- ★ ジュニアオールスター

- ・ 冬季休業中の日程有効活用
- ・ 学校行事との日程調整

- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション

■ チーム数・試合数

チーム数	1周/1チーム	総試合数	2周/1チーム	総試合数
8チーム	7試合	28試合	14試合	56試合
7チーム	6試合	21試合	12試合	42試合
6チーム	5試合	15試合	10試合	30試合
5チーム	4試合	10試合	8試合	20試合

グループリーグのチーム数によって上記の総試合数の会場確保、日程確保、審判確保が必要となる。

72

■ 1日の運営例(8チーム1日1試合)

16チーム(8チーム×2リーグ)が1会場2面使用で各チーム1日1試合の運営例

	時間	Xコート	Yコート
第一試合	9:00	A-B	a-b
第二試合	10:30	C-D	c-d
第三試合	12:00	E-F	e-f
第四試合	13:30	G-H	g-h

左記の運営日程を7日間確保すると下の①、②の2グループのリーグを1周(28試合)消化可能。

①リーグX

	A	B	C	D	E	F	G	H
A	X							
B		X						
C			X					
D				X				
E					X			
F						X		
G							X	
H								X

②リーグY

	a	b	c	d	e	f	g	h
a	X							
b		X						
c			X					
d				X				
e					X			
f						X		
g							X	
h								X

体育館確保や他競技との共有利用に対応するためXコート1面の使用や第一試合の午後スタートなどの運営も可能

73

■ 1日の運営例(6チーム1日2試合)

6チーム(6チーム×1リーグ)が1会場1面使用で各チーム1日2試合の運営例

	時間	Xコート
第一試合	9:00	A-B
第二試合	10:30	D-E
第三試合	12:00	B-C
第四試合	13:30	E-F
第五試合	15:00	C-A
第六試合	16:30	F-D

左記の運営日程を2.5日間確保すると下の6チームリーグを1周(15試合)消化可能。2周(30試合)の消化に5日間の確保が必要

①リーグX

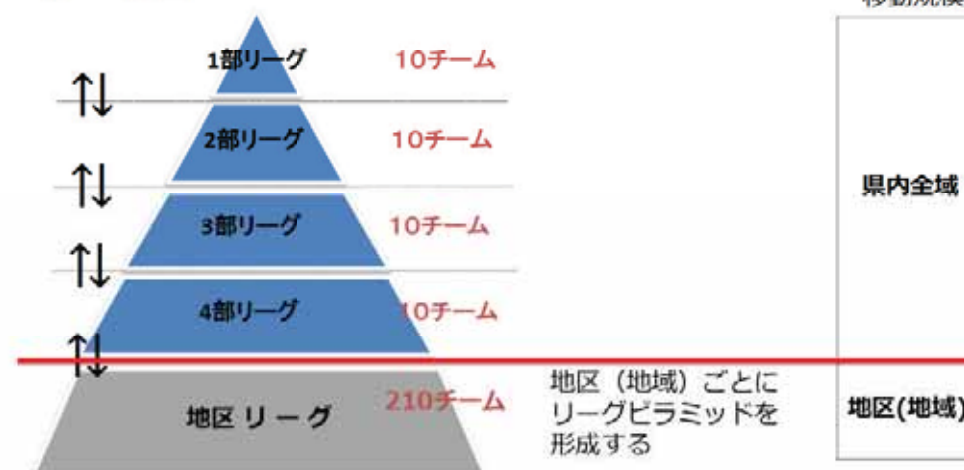
	A	B	C	D	E	F
A	X					
B		X				
C			X			
D				X		
E					X	
F						X

例) U18男女、U15男女、U12男女の6チーム総当たりを回すために6会場(6面分)×5日間

74

■ リーグ構造イメージ(登録チーム数250以上)

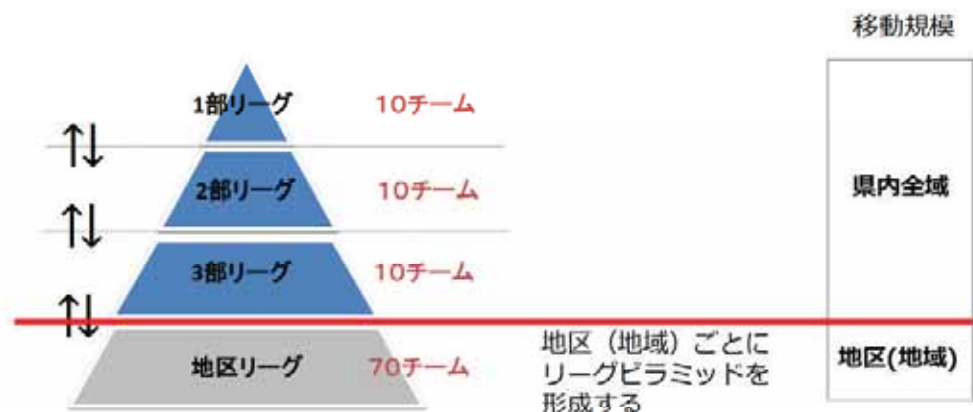
4部+地区



75

■ リーグ構造イメージ(登録チーム数100程度)

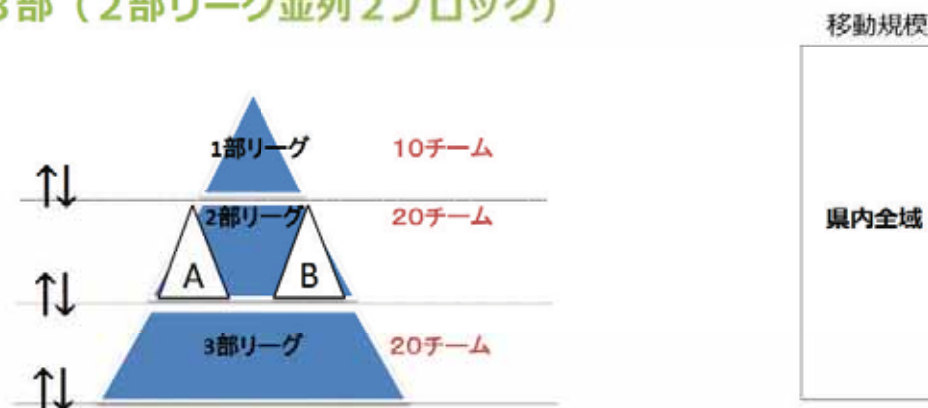
3部+地区



76

■ リーグ構造イメージ(登録チーム数50程度)

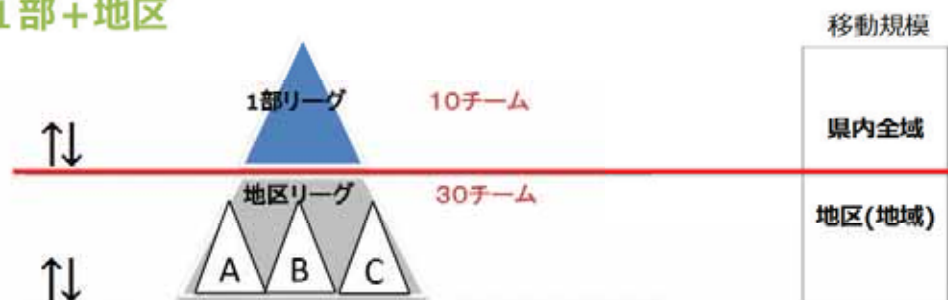
3部(2部リーグ並列2ブロック)



77

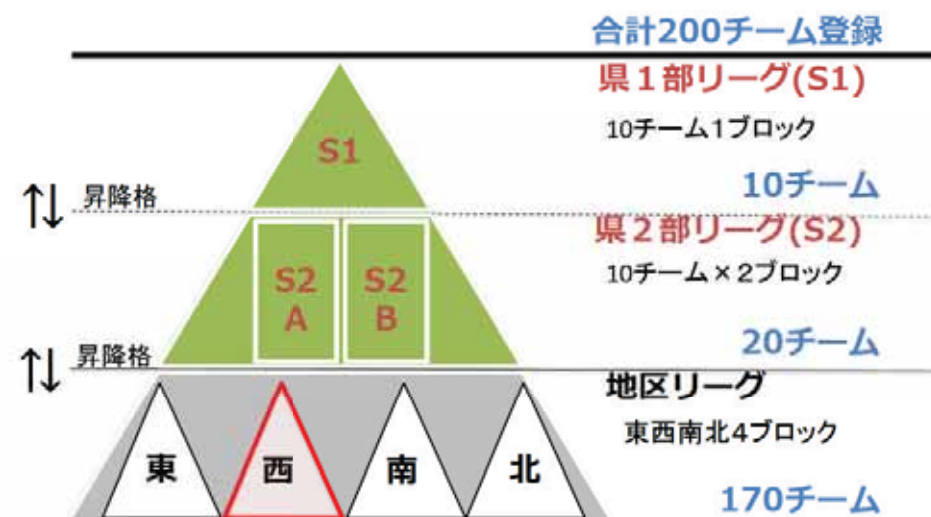
■ リーグ構造イメージ(登録チーム数40程度かつ広域)

1部+地区



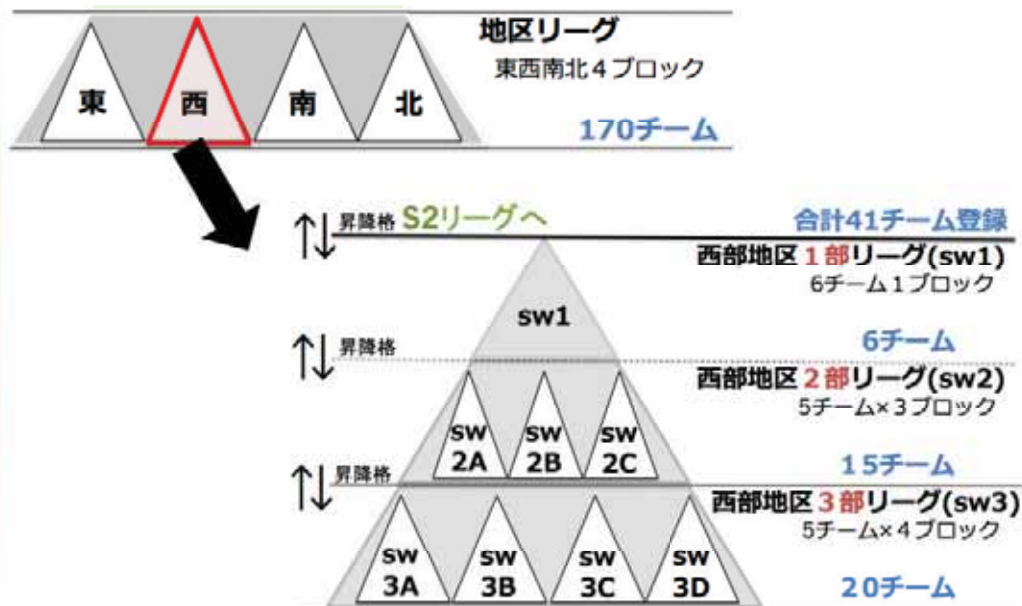
78

■ リーグ構造イメージ(S県リーグピラミッドの例)



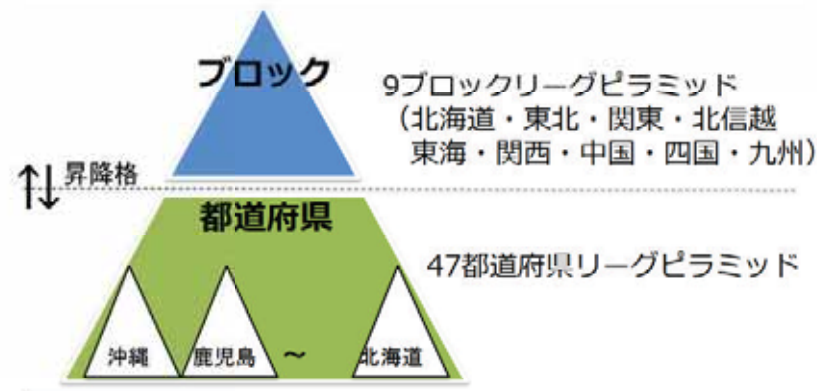
79

■ リーグ構造イメージ (地区リーグピラミッドの例)



■ リーグ構造イメージ (ブロックリーグ設置案)

よりレベルの高い拮抗した試合環境のために
将来的にブロックリーグの設置を目指す



81

■ リーグピラミッド構造とグループ分け



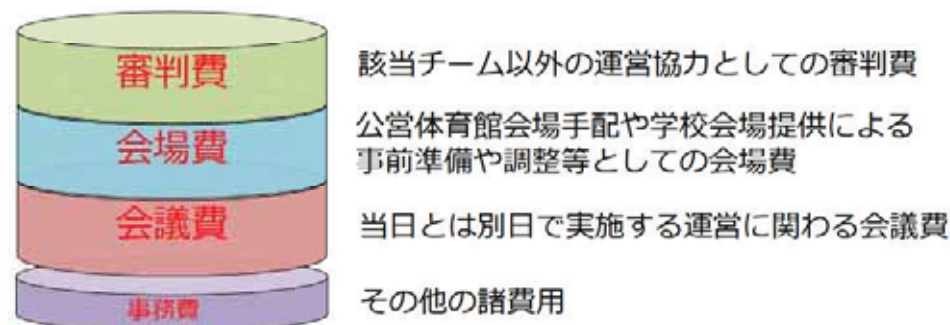
リーグ構成が細かいため上位
リーグへの昇格に年数がかかる。
その反面、同水準のチームでグ
ループ分けができる

2部リーグが並列のため、
1部昇格へのチャンスが広がる。
チームのレベル格差が大きいと
並列リーグが組みにくい。

82

■ 予算計画イメージ

リーグ運営における必要経費

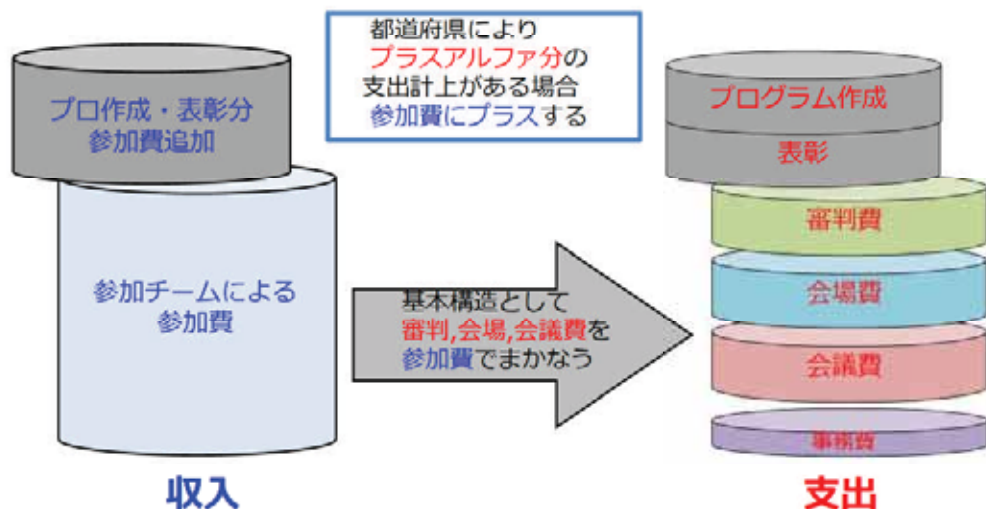


当日運営や参加チーム以外にかかる費用を支出と考える

83

■ 予算計画イメージ

リーグ運営における収入と支出



84

■ 予算計画イメージ

(参加チーム数：96チーム・12グループ・1回戦総当たり)

収入

項目	金額				備考
	種別	単価	チーム数	小計	
参加費	県リーグ				県：8チーム×1リーグ、8チーム×3リーグ 地区：8チーム×2リーグ×4地区
	地区リーグ				
補助費	JBAより				
	PBAより				
合計					

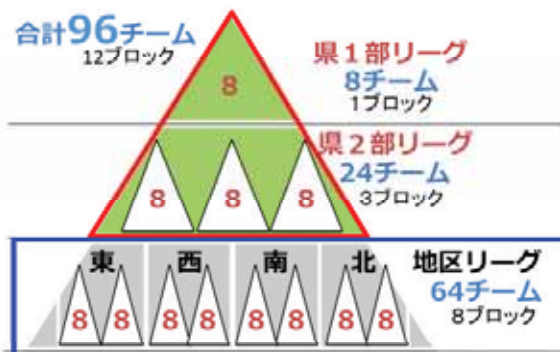
支出

項目	金額				備考
	単価	個数	試合数	小計	
審判費					
会場費					
会議費					
予備費					
合計					

85

■ 予算計画 (収入イメージ)

項目	金額				備考
	種別	単価	チーム数	小計	
参加費	県リーグ		32		県：8チーム×1リーグ、8チーム×3リーグ 地区：8チーム×2リーグ×4地区
	地区リーグ		64		
補助費	JBAより				
	PBAより				
合計					



チーム参加費での
運営を基本とする

参加チームの交通費は
練習試合と同等と考え
受益者負担とする

86

- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション

87

■ U15リーグ運営に際し以下を規定とする

- リーグ期間は、前期・後期の年間2ステージを設定する
- 選手の2つ以上のチームへの登録は不可とする（二重登録不可）
- 選手の登録チーム変更はリーグ期間中は不可とする（前期リーグと後期リーグ間は可）
- コーチは、JBAコーチライセンスE級以上の資格保持者とする
- 審判は、JBA審判ライセンスE級以上の資格保持者が行う

■ U15リーグ運営に際し以下を推奨とする

- 複数チームエントリーの場合、2チーム目以降の登録人数を7名以上とする
- 年間試合数を15～20試合以上とする
- U15チーム登録にU12選手の飛び級登録を可とする(枠数〇名)

88

■ リーグ戦運営事業としての条件

- 都道府県協会主催事業であること
- 参加選手がJBA登録をしていること
- ベンチで指揮を執る指導者はJBA公認コーチライセンスを取得していること
- 担当する審判員はJBA公認審判ライセンスを取得していること
- 原則として6チーム以上で構成されるリーグであること
- 1チームあたりの試合数が5試合以上確保されること

(D-fund申請ガイドライン対象事業条件より)

89

■ リーグ戦のスタートへ向けて

アンダーカテゴリー部会協力のもと、各都道府県の実態にあわせた方法で、まずはスタートすることを目指して下さい。

スタートを切り、段階実施のなかで評価修正していくことがリーグ戦文化の醸成へとつながります。

私たちバスケットボールファミリー一人一人の力を合わせていくためのリードとご協力をお願いします。

90